



孫風田記
 頁十九至二十

甲子五族号
 共六八

共十三

ル 4
 375
 8



門
號 375
卷 8

東古
學
紅葉原

筑前國續風土記卷之十九

早良郡 目錄

紅葉原

八幡宮 紅葉松原

鳥飼村

草香江

庄村 天神社

岩城判官冑墓

室見川

御手洗川

鷲尾權現

愛宕權現

岩窟辨天

姪濱

探題將軍墓

小戸

興德寺

能古嶋

也良崎

生松原

生乃社

太閤道

山戸村

七隈村

小田邊村

野方村

野苾塚穴

飯盛社

四箇村

金武村

重富村

入部村

曲瀧村

花欄瀑布

脇山村

脇山村

内野村

推原

八尋寺七五尋持
藏書

南上之地に... 唯... 是地郡...
 南上之地に... 唯... 是地郡...
 南上之地に... 唯... 是地郡...

和名抄... 載... 御... 名...
 和名抄... 載... 御... 名...
 和名抄... 載... 御... 名...

多飼 田崎 上長尾 下長尾
 片江 境 東油山 西油山
 松原 櫻原 板屋 小笠木
 推原 須山 内聖 西村

石釜 曲淵 西入部 東入部
 吉武 重武 四ヶ村 吉武
 飯盛 羽根戸 橋下 聖方
 十六所 下山門 石丸 福重
 姥乃濱 姥濱浦 強島 次高丸
 有田 小田部 田村 免村
 聖芥 榊林 京 飯倉
 七隈 店村 荒江 藤原
 西影所 荒戸 谷村 伊崎浦

紅系京八幡宮

此所社... 大徳寺村... 徳寺の時代...
 此所社... 大徳寺村... 徳寺の時代...
 此所社... 大徳寺村... 徳寺の時代...

出ハあやまらるゝ也ハ安永四年蒙古の軍兵攻めし鷹野
くた大風を起し舟楫を損壞して多しと日記に兵少武意
な馬の急送と大將として鷹野を以て戦ひ二千人と生捕
形河川のわたりて首をとる中ハ八幡堂を祀り祀り
二高尾のほとり豊前守と称せし城ハ鷹野の玄界
寄るあり昔々荒産はあうり百三松原の末早良川のを
テ浮の際と平沙壑として廣く松林を以て石毛
の地けりりハ長政を松と植く松原と云へりして元
和四年二月あり家臣菅和泉主簿減部小堀久兵衛
と合して軍事と司とせしり福名持多姫侯の所人
作きて毎家一軒より一石を以て買入り松名二石宛

植せしむるなりけり松年と云へり漸長ハ延宝十年
の後に廣く松林と成て幾万株といふ事を知れ今
も喬木多くしていよハより名と得く久ハ延宝松原
とも増り多し振神代と植ハ第河のふ代に松原とも
むし又唐人所のふ今ハ古屋敷ともいふなり又西地形
とも河金龍寺代を以てもいふなり松原ありし唐人
所の山を寛永四年のじゆう士の宅とありて西の松原
も安永に江里狩り屋敷とも成て地けりともいふ今ハ彼
も河ハ松原と云へり又元禄七年よりおきや松原の松と
いふりて徳士の宅とし延宝年定まりけり松原のふれ海を
こ山ともいふ土塔ありといふハ異城松原のふせきなりとも築

こゝに云ふ所の石垣は元は此地の古くは稲養まうと云ふ近き
江と川との地となりて石垣れ名を取し古多し一と云ふ
稲前稲後を常々後稲前稲後と云ふ一國と刻し付
こゝに是といふ一は土垣といふこと一付公家武家の命に
随ひて九列の人々集り常一ゆ一其國の名と記す一をん
いふ所の事ハ稲前と云ふ一ゆ一わん海あり一河國も
わん一と云ふ一土垣と常一ゆ一帝といふ一は吳城と防ん
こゝにいふ一ゆ一常一ゆ一常一ゆ一の一と一常一ゆ一中一は稲
養記といふ一ゆ一は稲系の海を志摩郡に海をいふも
き土垣あり

多飼村

此村の産神の事ハ福島の郡と云ふ一と記し信々神
印皇后沖御朝入時沖餅となりし多飼氏ありし人乃
子孫天正に於て尚け村と云ふ多飼宮内お捕と云ふ其
あと二帝と号し其宅の址村中とあり天正四年の以
とや沖宮御岩屋に城と云ふ村と云けし一は父子を
討死して其嗣を多飼氏なり人ハ稲氏同と云ふなり

草香

八雲沖抄藤原と云ふ一稲前と云ふ一は多飼村の在り
入江といふ一と一説し一荒戸山の下東南に波介一と云ふ
一と云ふ一昔は山の名入海なりと云ふ一は一説は地を
一と云ふ一変定一難し仙覺と云ふ授津とあり

勢之尾権現并志之尾権現

姫原浦山の上あり姫原に属せりけし山を勢之尾山といふ
細川幽斎の尾札記にけし山と可也山ありやうに記す
傳之の誤りなりやの山と志之尾部ありあり
志之尾よりけし山に権現あり里人の説にけし神ハ彦山
権現とい神こころハ彦山権現もけし山に初り是より彦山
と移しけるといふけし神と彦山と移しけるはけし山に今此
勢之尾権現と志之尾社のこころあり小初に正月十
五日祭あり寛永十年國主 忠之公國中と志之尾の社
なき事と憂へしめて山城國志之尾権現と名を勅信
して志之尾の家信房次女事の本付たる事と志之尾の想
司として評定ありめ寛永年とて成物せり凡志之尾

現といふは權と梓高の乘氣記といふこと 光仁天皇
大應年中と云後醍醐師といふもの丹波國志之尾山に勝
軍地社と合せあることと地社と勝軍ハ号せしことと
赤國武と号するは依て後世の浮屠附記して在地を
勝軍地社とせしことと号するハ必軍と勝利と得るよしと
りたる武家といふことと信する事ありぬ社傳の寺
と圓満寺といふ開基の信祐を杉遷と号し志之尾
なり寺傳の月捧 忠之君より号附せり又勢之尾社
乃別當坊ハ勢之尾山の南側竹の山といふと志之尾
に天台宗乃山依住人志之尾権現勅清よりけしと
皆人志之尾山といふ移して志之尾の勢之尾山といハ移るは勢

寛永年中

尾程規と亦そく之き神にけしゆりて登りて海陸山川
の跡度くして後世に傳ふる佳景に大國の郊にあり
程歎す人多く一え祿十四年社の正面西南の方より
尾と化りちる石階とて登りて華表と立ッ又
拒人のこりまむの大をこれかゝるゝ茶肆酒肆と多く
立並へり

岩屋一辨二文三

磐尾山の山に林あり海をのよ中と岩窟あり蓋天の
下をりて人力の異くあり其入七をり許
標を人余高五人余は乃廣と中ありハさきく俯して
入る奥のりるこつ人洋内石厨あり赤文天の石像と

安置に八月十日参り拜禮の人多し當りも訪れ
く人々を又引く山洞も 此山より入折轉りて
水のほと出つて折轉る所低く狭く終つて側身とあり
と場より洞中一石ありと俗に是を計の母といふ是
皆姫居れ境内なり

姫一居二

ひり神袖居とありとやハ幡田記巻 神切皇后ニ韓と返
治と居りて折轉るの時十二月曾けにとるあひ袖の赤衣
とてあひをりて袖居と号しといふいつのばより
姫居とありりしや福忌博多の外國中才一の唐村
りて所参り人家多し少桑家謙念概後の時筑前

探題磯と道徳尾山別々長城ありしういせを別
圃の府邑として警備せしと云いしは少く山ありて東
と浦山と云是勢尾山と云祇々筑紫筑前にもい浦
山のうきと登りて浦山の西にあり上は城址あり是徳川
探題の城ありと云後ハ斯波尾山系太丈住たり上は品沙門堂
ありと云ありと中徳山といふ凡徳山といふ所の廣い
こへよりあり石垣地中へ埋まり是蒙古と防ぎし石垣
なり其西山戸山と中徳と山戸れりとおんすといふ山戸の西
と妙現といふ妙現の社も妙現の西に徳とまはの徳と云
生の杉系と徳とけいとの徳とまはの徳と防ぎし
石墨といふ強きり所の山といふと云いしは徳とまはの徳と

寺徳侯一十七ヶちありその内三言一と天台と禪宗と
浄土宗一と時宗一と云ふことあり

探題墓

徳侯村の東北入口の山とあり山と探題の山といふ世に墓あり
あり村氏の探題徳川亮政の墓といふ石塔といふ鎮西將軍
日頭大居士といふいけいけといふ光運山寂照坊といふあり
其境内と葬ありといふり又在田の中と小なる墓あり小
林といふいけにも墓あり是徳川探題の家臣の墓とあり
徳川氏ハ足利家の執権斯波義持一墓ありといふこと

小戸

徳侯の西にあり山と小戸といふいけいけと小社も民俗の地所

蘇大御神乃社あり是住吉大御神之村翁の孫と 神切
 皇后異國より河歸朝の時此嶋より住吉の神を祀り
 して是を御海依と祈りては残嶋より舟より入りて
 此嶋より牛乳牧をせし也 延喜式二十 又此嶋より申
 西の方難司嶋あり少き岩山なり洞窟を申西より夜に
 通まり其より一人余あり楸栢をせし生せり又此嶋より
 夜に二丁より舟を夜に舟あり後之龜津と云
 万五の泊住吉の浦波立ちわらわれし也 萬葉集
 日 風吹く舟あり白波がこるしのはるあまのあまの
 船 今も此の浦に舟ありと云ふ人
 此風ありと云ふ舟あり泊のこの浦に舟ありと云ふ人
 中務

也良壽

残嶋の山あり出崎に今もあやふとて是は行つていふ
 ありつと鴨とよみありつとや此嶋よりと云ふこと
 ありつと鴨とよみありつとや此嶋よりと云ふこと
 萬葉云右流前國守山上憶良臣作此歌と今其内なり
 也良壽とよめる二首と云ふこと載る

生松原

山戸村の境内なり 宿崎より代松原と云ふ及と云ふも林
 中厚く白沙清潔にして風景すこれ他邦より又新まを
 きて佳景と東西十二丁余南小四五丁あり世に言わたり
 たりハ 神切皇后と韓と代しとて妙と云ふこと松の枝

むじ又一生松系こころをさかぬもさかぬこころよ 楠清平

今もまたい生の松系いこころをさかぬもさかぬこころよ 楠清平

初つと成とけけるをほく生の松とつひや〜

右二月飾の海後ちてちりけり〜 蓬子内親王〜 藤

とよひたる沖哥のぬり〜

△ なひくの成と〜 君やえ東の松より生りまつ〜 相換

右源頼清朝長陸奥の何と〜 又松後ち〜 けりてちり

けり〜 出立の心〜 けりて〜 けりて〜 けりて〜

都へと生り松系生り〜 君〜 少年世〜 ありん〜 す〜 源重之

悲〜 きて〜 けり〜 けり〜 けり〜 けり〜 けり〜 けり〜 けり〜

立つ〜 違〜 生れ松なれ〜 悲〜 けり〜 けり〜 けり〜 けり〜

昔〜 尺〜 心〜 ころ〜 と〜 ころ〜 ころ〜 思の〜 あり〜 生り松〜 ころ〜 実方

涼〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 実方

右一節太宰師陸家下り〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

立つ〜 違〜 生の松〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

思ひ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

君〜 代の〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

お〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

右一節檢中細言基綱太宰師〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

河原〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜 ころ〜

侍覚門院

堀川

右宰相

右宰相

都もくく生の相系れあふあせとゆるまてはし 国坊内傳

右大納言經信大武もめてけりしへまうとくくをりくると

あ集やぬもけゆく先の福うらふあ年まてりも生の相系 中務

百首あし生相系りてうとけまてりやあるのまけさ

校しつゝああをたかんにうれ神代り生り相系 常陸

あ言母のてを逢あふまやあふんつこの生り相系 飛騨

あ集りてせこの相系りてうらつこの中を想へり 後成

あ集りてむむも海みりてうらふくまら生れ相系 总法

生り社

生の相系りりあ東の方道りり南一丁半洋とありま夜真根

ふの社あり熊野権現も相殿りてまゆん 宗祇は師のあ集りりも世河社也

野もあかりけ社りりり逆相のをありまら あ集りりりりり

延寶八年と今の河移り相殿れ傍り河馬取河鉦石

りりりりりり 神切皇后是國征伐の時河庵の神か

りりりりりりりり真根りりりり河庵はあ

まうりりりり 應神天皇九年三月武内宿禰の

あ集りりりりりりりりりりりり武内宿禰の

甘美内宿禰足と港殺りてりりりりりりりりりり

思ひ 天皇りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

てあのもりりりりりりりりりりりりりりりりり

る 天皇りりりりりりりりりりりりりりりりりり

武内宿禰いしと夕吾二曰く志を以て君を事ふを福と
しめて飛せしめて身と失ひせんことをうき事なれと宮ふ
まのま夜真根子といふ人あり 姓氏瑞とま夜直は天兒屋根奈
九世孫雷大臣の後なり
其人より武内宿禰の形に似たり獨武内宿禰に飛せし
してしやしく死ん事と仰して武内宿禰に誥ていしく
今大臣忠を以て君を侍はんと黒んまきより天下を治る是を
志せり然るに吾も之を以て君を侍はんと申してはるる飛
せしより汝に似しむひて死んまきより其後死ん事遂に
一時乃人老る僕に形う大臣に似るるといふなり今亦大臣
に代りて死を以て大臣に丹心と仰せんとて則劔を依て
自ら死す時武内宿禰獨り大に悲しむを哀れん飛せし

避て舟を南海と経て紀水川に泊りて吾朝に由りて
ある事と仰く飛せしより汝を以て 天皇則武内宿禰と
甘美宿禰とを相問ひしや言ふ於て二人かく執して
争ひ是非を辨し 天皇勅して神祇に於て湯と探し
やあふとて武内宿禰と甘美宿禰とを以て磯城川
のたつとて探湯といひ武内宿禰勝なり 是湯記語
の意なり 則
探湯とて甘美宿禰と勝たりて遂に殺さんと
天皇勅して宥しむひしめて紀伊の直おれ祀を賜はし
日本記に云へりなり則志宿禰といひしやあふといひ武
内宿禰の志を以て身とを以て大臣の志を以て助事誠
なりとていふなり 總野稔と相殿とていふは八人の教ふ

村より北の方山をさき古塚を松浦殿塚と云松の本十坪許
立ち又い堀は南の方と墓を松を本より立ちこれと
能事殿塚といふ程山依塚をとも松浦能事を姓と
言傳へ傳へてもいふる人よやうせん其れ未詳

野方村

け村より西の方山をさきと越て松浦殿上より越すほど唐
傳といふなりけ村の北山深し窟を昔家伝ありけ
人の住し窟ありけ村は西よりさき山とけりけりけり
山より地産ありけ五部上系村と云せり

野方塚穴

野方村より西窟二十ふりる國俗鬼塚と云又と穴を

野方村

いふた吉及い向いの西面よりけり方宮を名と云せり
けり上を名とせりけりやうけ塚穴國中にけりけり
幾許といふ事と云ふにけり部の内も野方村け嶽の系
の禁羽根戸の山は中と飯盛山の下福吉村吉作村は
窟より宮内を名とせりけりけり入口宮南向といふ國の
あふに流國よりけり後代に名流兩用ひんとてけり
あふり俗氏をけり火の雨ありけり人なりけりけりけり
又或いけり人と云ふけりけり穴ありけりけりけりけり
けり事の上古のけりけり家伝無して穴をけりけりけり
柄ありけり周易も上古に穴をけりけり野をけりけり後世聖
人はけりけり宮室といふけりけりけりけりけりけり

亦かくれし〜あり〜

飯盛社

飯盛山の北にありけし山飯盛山と云ふく園と云ふ事あり
こゝをいふなり飯盛社も山にありし亦御堂と云ふ飯盛山
ありし宗像郡も飯盛山ありし國のこゝありし飯盛と
号する山法園と云ふ事ありし神記と考ふるに能く飯
盛二社控規ハ申殿伊集丹多丸殿ハ宝篋大神右殿と
ハ横石神なりとあり物とハ伊集丹多丸殿飯盛控規と
稱す飯盛吉武四ヶ村金武田村御根戸野方凡七村の
惣社といは山のふもとにありし園のこゝにありしなりて
長路もこゝ奥吉武方と仰や〜ありし南と向へり云れし

こゝ境地廣く昔も大社とて神祭も多し初宮も数
多しなりしと云ふ今も神祇の事古き文書多し残り
てしりし盛ありし事と仰〜ありし亦古昔年中
の祭礼なりし事と仰〜ありし必おと概約い五
月十日も祭ありし四月十日武村も二月十日初午の祭あり
六月晦日暮越の祭あり九月九日大祭ありて 神輿御
幸あり今程むしりの多しありて馬場ありし御輿休ら
るあり十二月朔卯も祭あり今多しハ古法と云ふい
〜ありし正月三日神饗と供へりし十日三日饗と供へ
りありしハ去年より供へりし粥の乾潤と徴の出を足
て方角と云へて其年穀の豊凶と減と知る事あり他

國もつゆきありあり鎌倉は愛國のち山の神乃たを
毎年霜月十五日酒とつゆき聖年正月十五日の神供
其酒の味乃苦酒とつゆき歳代を山とつゆき知るなり
世評の神もつゆき是亦社の名なり新より九月九日
つゆき恒例の系も流福馬も里人おほく神饌とつゆき
系事とつゆき社の南に文殊堂も神宮寺あり天台
ふありけ村の南に方より西に山とつゆき信立部高祖村
乃南より校村くあきとつゆきつゆき日向とつゆき
是つゆき部より信立部とつゆき大道とつゆきつゆき
つゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆき
乃南より校村くあきとつゆきつゆきつゆきつゆきつゆき

四ヶ村

村民の流く凡田十二丁と一名とけけ村く四名も名く四ヶ村
と名けく有久名十二新系名十二柳名十二薦田名十二是こ
一説く産土神の社ありつゆきつゆきつゆきつゆきつゆき
明神の圓大の神馬川天神是つゆきつゆきつゆき

金武村

福園より三里あり是肥前之津越とつゆきつゆきつゆき
山とつゆき一里すけの信立部飯場村あり飯場より又山
とつゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆきつゆき
境内に立神山と云高山も此山と云多し白名も新原
郡古河山も坂殿の付つゆき大岩も又地圃もつゆき金武

飯沼より流るる水は南山乃列の谷より出され
瀧川や多し大岩の上より落ちる中の側は岩角ありそ
まことあつち水はくしてりる瀧のまことちり許住事あり
凡瀧を紀列の那知傍は國の眞面布川大和必の龍門
世いつり瀧掘生の瀧をまくれまこと上方よりて道さ
くれは昔くこまことやく西國より紀前少城流るの瀧紀後
乃ま田の瀧上野の瀧をくまこと傍まこと瀧はくまくれま
田龍門流るる大瀧はれはまこと下雖し後まま子ま
くまこと幽癖の地ま上野の瀧をまくまへす傍ま
觀堂ままこと乃まことすまことまことけ國の瀧ま
まれまといま欄の瀧ままことまこと一里人曰ま花欄ま

し山伏飯沼の上まこと魔法とけりけは瀧まこれて
修りまゆまことまはくまこと

眼山御

推系板屋少ま西村根村を竈ま側内野八村とす
へて眼山御ま昔少推山東門寺列院は村まま
右のり村と無く院内まま今は風ま元と曰早ま
まとい内ま村ありま東光まの院内り地なりし村乃
ま院内とま

眼山村及内野村

此ま村ま少ま推系山ま南ま推系山まそのま山の間
なれま院唐く田ま推系山ま四方唐くしてまし南

柿本茂り山の油のほかにまてまろを置けり凡龍前ハ
少海とつけて南に山をいり山を後にして南に
て臨み背を向ひ往後地をたてしありあり平の城も
け山の西山をいりていりていりていりていりていりて
是平と名づくけ村の東に小笠原村あり是又是平山
の麓にあり小笠原より東にのりて山を越え西畑といふ谷
へ入る所畑より東にりり那河部岩戸の川に村あり内登
の枝村に仙臺といふ所あり是又是平山に麓に地ありて
山を後に水と前にしていりて山とらるるに任地に仙臺
凡龍平城よりいりり谷を越え水戸前谷といふは水戸
中野といふ一山田部氏の妻ありしと主婦の嫉妬によりて

殺さるる是と城の南なる谷にいじりていりて谷の名をい
る後に谷に大蛇あり是と人恐怖て殺さるる病に成
或は死に及ぶ者ありとや里人の水戸前谷に化す
そのこといりていりて大蛇と人なりといふ既に死に
しや池田といふ枝村あり根山といふ岩村ありて此
あり大日堂といふ古佛に大教坊といふ山依の位を一宅のあり
大日堂の側より泉石植木おぼしめしけり大教坊を
大正の頃より後堂と改めしをいりていりていりて
いりていりて龍造寺隆信と興をいりて是平山に山田部氏より
攻殺さるること是平城の事と詳なり

推原

の故城あり

ふる良穀に属すといふもふる良穀の法村といふ山と信る
形河川の上をそ五ヶ山の上流といひ谷れ内りれも西乃
杉原と記せしめて山と記へ東の方と以てふる良の記とい
形河記と記とつそりけ村ハ少根山上宮れ燕の少一
東とあり上宮のトと谷多一山橋多一又村中も前山の
側にも橋多一春れはるる人まはるるり他山の橋ハ
白濃なり凡五ヶ山と橋多一といふも杉原の橋ハ杉原
三陪より杉原村と小河田より尚山保く地さくして
信る甚一史記の記述一福島の一と橋より廿斗り
途一たやう之月中穀雨より後三りといひ山橋ハ盛り
といふ其ころまで杉原系も少りて合もあり杉原を

いすゝ寂くいひ地盛甚くも少く静く居て勤うこれいすも
杉と若葉といふといふ一杉ハ甚くといふも杉原とやう
まの着ても尚き一け里と蚊一其のせめて余心乃
里とゆきまじり橋ハ石懸して赤色と帯るあり杉原一
唯杉橋といふゆ中橋もあり一是をき氣ふりさゆり
栗と混柿ハ外葉一橋柑子今柑の形ハ植は生
出さす後ハ枯る茄子さけを植はす其のいひ只産
當と芋のいふ一他の菜ハ蔬も也一難しき事列列
あり又茶と多く植ゆ是國中才一の好品也土産の毎
年十月より四月まで里中ハ雪を消してまゝ氣あり
常の冬ハ雪積る事二三尺なり世あり大雪降る時ハ

山より四方と竊ひらなり高きをより杖の爪を氣清明
ふして烟霧なき時を朝鮮國をゆき五月末多き時と
しるも暑くくつ角の政對馬をゆくはゆ對馬は是か
百里あり山より少く都は龍前眼のありてはゆ南
よりわの肥前龍後五國より眼より俯して竊ふ又紀
前薩摩日向冬前の法山も連続して是ゆ冬前入
彦山内郡の宮澤山和須郡の古山をとりて
とてはゆ山のより人まは控眼よりよりけ都の神の
此山と述べて又言ふとてはゆ山より人まは部婁のや
こてはゆ一況を余のむく山は唯平地のやゆ凡
い山と山脈をまはるべき事と眼の及ぶ所極めたり

行きの高き事 法山のより人まはへより杜子英の泰山
とらむしつる會當陵絶頂一覽衆山小くともかく
山より一毎年三月まで雪あり山上甚風をじ極暑と
しては衣着して忍難し絶頂の小社を是 神切皇
后三韓と表流ひの祈願のこちと云ふて社に
建て祭ありと云 は事ハま曲抄の内
玉林苑と云ふ け神と俗説に無き天
と稱し大日經疏と考ふると無き天と男女を大凡佛
者の無き天と云ふは祀無き天なり一寂勝王經に曰無き
天を為闍浮之長姉ト又曰在坎窟及河道少之浮屠
氏け教よりて附會し凡龍國の水を窟中と在神及
女神と呼て無き天といひ背振の神も女神なり無き

天と稱する所し安藝の嚴島近江の竹生嶋を其神名
いりありといへども亦天と稱するや一里氏の言傳あり
いへば亦天百濟國より來りしありといひし時亦此の馬
の背に振るる所と背振山と名付しと云林苑にも飛
龍脊と振ひしと記さる飛龍の馬といふ馬と龍といふ事
唐五文より記さるけし時佛法の甲と家邦と年といふ
亦天の所法を神切皇后新羅及百濟高麗と平し
けてありといひしと記さる社と云ふ所と云ふ事
いへば一社と稱して一人をていへば神切皇后三
韓といひのまゝと平しけむいし事と云ふと兼て祈禱
と云ふいし社助といふと云ふといふ國と七社と創と

いへば山背振山の神其隨つる三代實録と清和
天皇貞觀十二年五月廿九日庚辰詔して
と云ふ社と云ふ 朝廷よりいへばと崇ませむいし神ありし
足利尊氏九列も向の耐白旗と流いし神と云ふけて
祈禱もいし事ゆらむと云ふ社と云ふ社
英楊の本もいしと云ふ風穴あり後頂より下りし山篠
多し大日堂白山校規役行者堂龍池をその古跡山
中いへばと云ふ昔の社神社といふと云ふと云ふと云ふ
いへば宮司と東門寺と云ふ天台宗ありしと云ふ 元明天
皇の沖時け宮司の傳流と云ふと云ふ人 朝廷の祈禱
とせし事ありと云ふと云ふといふといふといふと云ふと云ふ

左々ありし傍坊三百區ありといふといふ寺は傍坊
といふ其邊法隆南方の言まへにありて名高級
とせりなり大寺の址を亡し事何れとせり
昔脊振山の傍法といふ西仲山天福寺の傍法といふ
まかりて脊振山の奥を過りて脊振山と迹をて
天福寺の傍法といふ脊振山より馬きりてとせり
ともありし脊振山の傍法といふと西仲山と押寄
火と放りて焼くといふ一々集りてありて後烈
と報せんめりて天福寺の傍法脊振山と又まて焼く
龍造寺隆信終て再興せり再興の後又薩摩の
兵宿振山と焼てりり外世の町とて建てる人

人々終て瘞亡の地とありて西仲山も焼失の後再興
正事あり昔性空上人の傍法といふ龍前脊振
山よりして住居一其後攝摩れ書寫山とて後りし事
朝聖群載才之を 花山法皇の書せむし性空上人
の傳及え享釋書く人へり又 花山法皇の書きし書
にありし巨勝寺より性空上人の影像と写しし其
平親王の其智を他より行成大納言と書しありし
にも性空を書きし書に龍前脊振と後りし書に
と住せりといふ性空上人の傳に今定まらざる
いへり龍前脊振山といふ住居一也又いふは山の南に
傍坊の地ありといふすありあり其外け山上北の方

こくく人住き地を又東つちハ 東ハ形打部仲村
西ハつち良部東入部地部堂と記すハ地部堂ハまき留
村の境内に傍田の申と塚とて大なる立石ニツク梵字
と刻りハ河神ハ河餅と謂ふ社人板倉村ともて不
一より世々其家おれて河供とある上宮と云はれし
人の養子ともけ社人おる所昔廿山との社無常の村
南の方紀前より北の方とい神と勧請ハ申とある成
中宮と号し寺とて是と守りしり壺仙と号し天
台宗とて社も寺とあり下とありとも字と稱し下宮
といふ社也といふ下宮と上宮と稱す上代ハ上宮の
祓り一只山上の一宮のとも一なる後代紀前の方ハ中

宮下宮と勧請と一より上宮と稱す中宮下宮ハ在
紀前國神所記とあり一より寺と壺仙寺と云ふ皆振山ハ
えより紀前といふ近代紀前ハ中宮と連し一より
といふと記して名付て皆振山と稱す是昔のいりり皆
振山といふは後と名付し名を記すといふ近代紀
世の何上宮寺院とて回廊とありて山下に傍坊とて
ありとも上宮ともいふ中宮壺仙ともいふてはとい
社と護押といふといふ三國傳通糶抄と皆振山と
記すとも其守護神ハ乙護法ありとも凡皆振山
の記すとも屬せし事三代天皇福躬野記載之享福也
及具平親王性空上人の贊三國傳通記ありとのせられ

長樋

地の名なりあり
長き樋なり

杉京村の東よりあり是ハ川の上ニ樋と云けて川向
水と云り田と云りす樋の長七郎云々昔より樋
ありぬといきと樋廊といふ

太平寺址

杉京村の内ニ杉京村境ニ禪寺ありと云今
ニ址幾と云り唐七八段許あり中ニ釈尊ハ朽と云佛作
もん入と云り村人草の庵と云り入あり形阿彌屋
形あり居りあり葉探歌ゆ依の寺なりと云ありハ
大寺ありしと云大友氏下國ハ巡るなりハ付寺
ニ宿ありといふ

油山

東西に村あり
各寺あり

福園の南より高山の上ニ坐落すハ昔波對馬其
外ハをきりて絶えつ福園より山下まで一里余山下
より岩まで其所斗あり替りありと云りハ聖
武帝ハ所斗あり法聖といふ僧ありハ胡麻と多
く作り油と云りありハ臨五教法と云りせりハ依て
油山といふ油の類にせりハ山の替り東南に村あり西油山
東油山といふ一里あり昔よりありハ村ありハ傍坊多
かりといふ油山村ハ大石多し民家ハハ大石のあり
あり今ハ西油山の地むりハ中河系といふ村里を田
畑とせりしりハ世田畑と云りハ畑と比りて村となれり

村氏接の皮と葉とと多く取りて抹香とて福園か
とておかしき賣家の産と助く龍樹檀現の社の址
山のせり高き所ありそりて名岩とて大岩あり
長三四間接なるもそ通る下と保石とて横一尺長
二尺ありありなるも四角にして削りけりやい今も
龍樹檀現と山とて移り村と近し九月廿九日祭
ありとて昔も龍樹檀現のちりて馬福ると云い
禪寺あり山号ハ西油山と云傍坊三百二十区ありと云
と一坊もせしとて址竹林とあり傍坊の址区とは
て高き一室とて二百二十坊もありとて是も傍乃
菜地なりしとてやい寺焼とて事ハ背振山の菜作

記ハ西油山と鬼塚とて石室ありそ内入七人斗
入りあり許ありとあり是も古人の家屋なりとて人の
住しありとて東油山の寺とて龍福ると号し是も又
禪寺とて用山ハ平田慈柏和尚と云聖一國師四代の
法孫とて東福寺の末寺ありしとて是も傍坊三百
二十区ありしとてその所の何と減りや昔のちりて
世帯のちりてとて傍坊一室もせりしとて近
年傍りて親善寺との少とて終つて院一區と化りて
親世帯とちり親善寺ハ山の半より下あり東油
山の村より八十二丁より二月十日六月十日とい親善寺
と親善寺とちり人あり高人集りて飲食の所とて昔

傍坊のありし如今の松野とありて之を止野

神松寺

醫國徳山と号し片の村とあり神松寺と号し徳寺と
天神老和の古神とありて之を醫國徳山と号し片の村と
宗師佛と安坐する所とありて之を聖一國沙五代の
法縁南谷を契りて永享年中と開基とありて
南谷和尚永享二年の事とありて天文七年因坊
山口の太内義隆より此の文書ありて之を祈願所とあり
て之を文書とあり

大府宣太宰府廳官人等可早任廳宣筑前
國早良郡神松寺事右寺者為祈願所之状

如件者廳官人等宣兼知依宣行之不宣

天文七年七月三日

大貳多々良朝臣判

又天文十四年大内義隆より寺領二所五反寄附の状あり
大内氏の時太宰太貳職として筑紫の事と司りて太
宰府に居りて之を此の廳書に太宰府と宣と
稱す之は外書多し然も此の寺領に及寄山乃
画像の事民家とあり住僧も之として民の抽とあり
是の村といふは之の村ありて之を味とありて之を
法ありと傳あり

櫻京村

此村を樋井川の谷に臥しあり南山の麓に福宮あり

所惣更毎日業勤とて福園と抄出さるる田圃少
くても人多く馬多し南山より甲塚連南向の窓
甲よりけし時より那珂郡西畑へ越る處と新の系紙と云
けし福園の方より能くゆりてなり

兎村

近世は村に大百姓も富家なる宅とて構へたる威付
家の内りくも移つともなく大焼出たおとやくはんと
正れもあけ家終くまなく焼ぬ富家のうちまじりやく
家成さしりあう程大に焼り出さるる後すこの甲より
大焼出た縁と盛んしあうて終く又家と焼く信百姓
又新造造りたりやくとなく又焼てまじり又焼ぬ焼る

事幾夜といふ事と知りしに後終く家成あて家の
奴婢と出さるる印しと家窮の事とありしに食の如く
して少家とけし只更婦の事を信たりしに焼ぬ家の焼る
やとわいりする者世の飛きしとやと其由事と尋りし彼
との秋は時他あり客信ありて客りたりし信多しお
ころ信て彼信と殺して恨とありしにまじりひたりとす
へし又新造造ら家といふあり高人も世も信成とあり
是又と先祖高野の信れ客をいと殺してそ成と取し
ゆりありしに新尚國中と多し天道ハ善く福し信と
福すといふり又曰善とせしは是く百祥と降し不善と
あせしは是く百殃と降すと云へり聖語豈誠ありや

又古語云天道好還也之なり天道ハ誠ニ怨ヲ以テ事ス
ト云フ也

筑前國續風土記卷之十九終

筑前國續風土記卷二十

怡土郡目錄

高祖社

如意

金龍寺

三雲

依々連石社

深井山

飯氏村

高麗寺

大門村

周船寺

夷魔山

安之上

鉢伏山

叶岳

千里村

赤長村

井原村

曾根原村

井原山

井原川

雷山

雷川

御坂

瑞梅寺

多久村

篠原村

飯場

公領

長野村

小倉村

立國寺

楠田村

川上東村 神有村 岩本村 加布里村
田中村

唐津領

深田村 怡土濱 一貴山 子負村
深江川 久安寺 浮岳 葉島
吉井川 橋嶺 鹿家嶺 包石
真名子村 關屋三所付

畿前國續風土記卷二十

怡土郡

日本記云伊觀伊都を著り日本記第八仲哀天皇
皇記云曰天皇德範を以て御宇とて御宇天皇乃
いづみと奉りて五百枝の賢木と後て船のとも船と
上板とハ八天瓊とけ中板とハ白桐鏡とけ下板とハ
十握劍とけて宮門宮門のの川崎とて集むて是を
執り固て養ひて曰長けいものを執りてハ天皇八瓊
のすむらみくすく及て御世とて御世とて御世とて
かくもつとて御世とて御世とて御世とて御世とて
從て天子と平けけとて御世とて御世とて御世とて

福園領 二十二村

- | | | | |
|-----|----|-----|-----|
| 上京 | 徳永 | 周船寺 | 高藤寺 |
| 大門 | 高祖 | 西堂 | 末永 |
| 王丸 | 飯場 | 井京 | 井京山 |
| 瑞梅寺 | 高上 | 三坂 | 雷山 |
| 三雲 | 井田 | 宇田 | 河京 |
| 子里 | 篠京 | 多久 | |

今案より 秀吉公天正十五年小早川隆景と藤吉園
 と協りし時博多のりし一層船の着し支名務の地を
 商人多く京畿他處の人集り度き所ありしに公領
 とすしそのりし隆景思へて城を築し公領に

國政も一致し行りて久しに且盜賊飛人の起り倒敷
 る感へれは萬事につき妨多しとて恒五郎内と具
 代地として博多と領せしり安長五年 東照神
 君より三田長政に國と協りし時も先例として
 恒五郎の内博多代地は協りしに取らたし記すその
 三十八村は今も皆 公領及他領に属して國主の有ら
 ありしに公領地は合二万九千石五斗七升あり

恒五郎の内公領より其村の名

- | | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|
| 松東 <small>信江の系</small> | 斤山 <small>信江の系</small> | 湊屋 <small>松京の系</small> | 田中 <small>祐百村の西</small> |
| 加布里 | 岩本 | 神有 | 本村 |
| 東村 <small>田中</small> | 濃戸 <small>長野の西</small> | 波呂 | 石寄 <small>波呂の西</small> |

長石

唐系

浦吉

史戸

唐系

史戸 小苑

長野

大村西方二里

飯系

之飯

菊持

八島

香力

在田

平原

唐系

留村

多入と

斤峯

河系也

右二十七ヶ村惣高合二万八千六百七十石余

塩土郡之内唐津佐と成村

吉井

福井

鹿家

堀村

本所

佐波

大入

真名子

一里山の南山の

深江

一里山

淀川

淀川の

川原

一里山の

高祖社

高祖山の神ありて高祖社と産中ハ高祖大明神たり

竈門山神右ハ神切皇后也神殿ハ乾と向へり是敵國
降伏の爲ありて高祖大明神とい彦火と出見ると
世々の帝皆ハ神切神の神裔なれハ高祖といふあり
神切皇后三韓と討せんとてハ神切神も祈せむ
取て後世とて皇后とも相殿とありたりと俗傳
系田氏代ハ高祖と任せりこれハ後漢の光武帝の在
孫ありハ漢の高祖と崇めり社ありといふもたると
す系田氏代ハ作ハ源賴朝卿の討たりハ神法座の
討たりたり後漢の三代高祖と云々元年九月布衣
帝國正六位上高祖以神神と後五位下と授むとあるも
ハ神切神の事と云高祖と云殘とも書りハ外他の雜記にも

高祖と書り神切皇后は社と云ふことありて高祖
と稱するなり又高祖の字ありて棟札ありて高祖と
記する九月廿九日祭礼ありて神輿三雲村と所奉
しともしこも終り入り永正二年京田浮心彌無持沖
原らの形破れ及て久保親とて改建とて元龜二年京田
浮心親持とて建てしなり今社を天文十年京田浮
心澄持造りたりと寛文二年國君光之公修補し高祖
石の字并元禄六年創と云ふ額ありて山内府定
藏より奉りてお右の石より村よりむすのたを并ありし
ありとあり

高祖山

怡土郡の東高祖村の上より南少く長くつゞきあり
山より京田氏城址も西の麓あり京田氏常の居宅れ
址も又村中古宅の址多くして境内庭一山下あり
かこりあり村里たり

如意

高祖村より南高祖村より七八丁北の方山并あり
氏家数軒あり其よりの方如意輪親善寺ありといふ
昔如意寺とてありて址あり如意と云俗に禰とい
ふといひ記しつけられあり如意輪親善寺ありとい
ふもその如意徳太子の御化ありと云傳へて今も
其より下の方妙善寺とて日蓮宗の寺ありと寛文

して死なむ事と悲しむ故志村と人重龍とと安附して二
子の冥福と求む重龍と今と京田江村より代々の
石塔位牌及宗山以来数世の住持位牌并深盤像
あり一宗長十六年長政の家長高橋伊豆の寺の壇越
とありいこの事と吹捧して後々福名荒戸山と金龍
寺と建つる物とも其旧址をさしつていへるも寺と残
しあて今とあり

三三雲

い里と三三雲と名付一事ハ里民の故と曰け村ハ真雲菴
といふ寺ありい寺むじりハ古寺ありしりそ宅中ハ池あり
池より紫雲とい物立りいハ三三雲といふ村の東ハ紫雲山

といふ小山も此山にけり昔ハ檀現の社ありといふ今も
あり又村の東ハ此外ハ茶臼塚とて茶臼の形と似たり大塚
も南北十町あり東西七八町あり上ハ石仏ありそ山と瑞
山といふ塚も茶臼塚よりいふ山の上ハ檀現の社とて
是所の塚ハ高麗人の首塚といふ傳へたりムナリコナリ
と齋堂とて教せし時高麗人の首と云ふと埋りぬし
其寺とて高麗とて建つる其事ハ詳と云高麗とて
とありりせり茶臼塚ハ是高麗人と埋りぬありとい
さゆといふ所も高麗とて埋りぬあり高麗とて埋りぬ
まとい言難しといハ茶臼塚と埋りぬありとい高麗
といふと高麗とて埋りぬあり

首塚といふまゝありけり此村に雲に雲なる藤人の首と記
しとまはるるあり高麗人の首と記すといふこと
まゝに建しや高麗寺の高麗を村より山の方山の上より
迫きせめて礎石を残してありしを今も畑を爲してあり
と堂地高と云其りしと終りる説き言ふといふ寺の在り
と云六河原陀のといふなりしと高麗に云へり凡藤前々
河の勅額ありしといふ雷山灵鷲寺後号一貴山夷山觀寺
深井山靈鷲寺高麗寺山号不詳肖振山东门寺雷山
一美山深井山をく 聖武帝の勅と云けて法聖とい
ふ僧寺と建しるありけり

大門村

むらさねの城より村大門と建しるに下りて村の名
といふ

目船寺

村の名を雷山の古き文書に主船司といけり寛永六
年四月十一日土氏新築といふに古村のき路に上りて丸
隈山といふ如く石棺を由着しりて八月廿一日より堀が
是の如く七日と堀出たり石棺七人横を人といふ内は隔り
て石の椀も彫刻あり方と二ツも一ツは女人の首といふへ
とと約一吋分碎れつたる彫刻も今も在りあり
棺の中と云朱と以て埋しり又棺中と刀痕ありと云
りて形より辨まり後三四面ありとあり八寸中を辨り

五丁を山に作りて守りてつる石のたふる鵲鷲并後を
尚新苑より孫乃家あり石権外と石窟あり也二向
横七人言ふ人斗まう上も石とありひ口と亦石を以
て是と塞く権も石窟乃ちと兼てつる前國君
流前守也之公いりて少むひにち四方の堂と彼地は
りて鵲鷲と油をせり彼の堂元文年中彫破して
ととせし是誰人の墓や姓名と知りし権名を子
とらるしつるこりありれ富貴の人と葬まらるありと
碑字もなれは知し一京田氏ふとと葬りしとあり也

夷魔山

徳永村の内権原と云はるる山とて徳野には権現の社
あり徳野権現といふ伊柴冊なる子翁另速王男乃
之神と言也つる此の内地と徳信寺も時代詳あり
社家の説と神印皇后異國より神歸朝すしと
徳信をせむいりと言傳へり社の上山は絶頂と云
の石として大なる岩ありいり何れも社をいふ今
又社ありて説言書きと東北の麓に十王堂あり昔
海城と傳抄するの十王とめすとい地と権現とゆ
其の所と書くと建て入るると今十王の像今傳へ
は夷魔山のありと傳へ初めは民屋をいふ長年申
りて氏家と建てりてありて伝土志と云部より出
来新杖木とて舟とけりて福急と云夷魔山の北

お崎より今頃は海も平くはなれしとけの後一毎と云
お崎より今頃は海も平くはなれしとけの後一毎と云

安ノ上

上京村の南に磯山の山麓に唐京あり是と安ノ上
に里氏ハ説くむし平家の一門安徳天皇を供奉して
都と名西國よりして岩戸少師大藏権直の諱に寓
居る一付流きた都と定め内裏と化す一と公卿金銭
をてい何と其地を定め安害とよせんとて九列の人粒と
集めて流とせしむれ流を才一の流ハ山の中と切通し
て柳京までなり才二流を上京村のくつまきとあり才三
乃流ハ唐京村入るあり今も田んぼあり二つの流と

流として甚長一とくむし民力と用すしてハ流場と云
とありはかりと一も緒方之帝惟義守と平家朝武と
一ゆい國と云て四國をさすむし一ハ流と流と云て
家造りハせりしと一 安徳天皇の皇居と定りしハ
安の上と云村民の流のこし流と云い地ハ谷の内窮
僻と云流内廣くハ安害と云すむれハ皇居と云へし
一とありハ唐京とて皇居と成へし安害れ地ハ國中多
しと云くハ地と皇居と云へしハ是ハ高祖の城乃
ハの禁と云て櫛はなれハ安害と云むれハ三を流成し
上ノ京れハ云はれハ東田氏家七の宅乃址あり又上ノ京村
のくへしハ小田部陣草野陣ありといふと云は昔京田と改

村々 神依山金剛寺 山号吉野 吉野村 楠田寺 山号石知 東村

皆言言宗と云々本村より伝来しある海辺に壬午川と
七寺川といふ川あり七ヶ寺よりい橋成りけりや又川
と後て悟五郎七ヶ寺へりぬ名月と云々やい川に
本の名を後て橋よりかへ正東の岸に大岩ありて
こむらゝふも測ありて後説昔に測りて大鱗と云々
比て人と成りて後て物のためと云々こむらゝふに測
ありしと云々と土民を詳しかりし傳へし事あり
奇怪なれ信難して云々詳し記せん

叶岳

叶岳昔も天向山といひ山悟五郎と早良郡との境に

峯と以てつら山とて地蔵堂あり悟五郎上ノ京村より
属よりむらけい山とて大石より上京村吉住田橋と云
者地蔵堂と山とて建んをいへ大石の傍に離れし
てこむらゝふ堂ありて後大岩出立堂やけりも焼
つきて谷ありて地と又堂とて石佛と安置す
天正年中言祖の城主京田より栄け堂を改造し田地
二万余畝附をいへ今も上京村の内にて地蔵田と云々
志之公寛永八年に改化し同徳の八世の孫今も上
京村にありて堂を守り傳へあり毎月申するに
ふ活の人も活す四月にありてをいへ活する志を
多し高人も數十人集り山との能をいへ上京より

の遠く南に西面山とて竹山あり加藤山とて赤山あり
村の外に加藤子安寺あり松井中宮とて板村中宮あり
ひら西堂東水瑞梅寺并赤山とて宮并赤村とて寺あり
とて北に國中とていと大なる村あり近世に別村とて
る凡に村に唐平の地とて在り四方に村敷多くお連なり
ひらとてい村に邦君あり別館あり

并赤山

并赤村の南に赤山とて是と并赤山とて其前と并赤
山村あり并赤村あり赤山とて并赤村の西より川と通ぬあり
て赤山とて谷に入る事一里余其前山の中赤山とて并赤
山村の北流に所前とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて

とて水の流るに赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
其前二流あり下の流は赤山とて上の流は赤山とて赤山とて赤山とて
くして赤山の流るに赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
谷の内より赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
狭く赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
山の形より赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
隠者あり盤旋一仙宮の柱あり赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
栗山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて
赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて赤山とて

谷と多くして高産を以て凶年饑饉死と免んくこめ旨
うらひ山に入昔蕨の根とりたてて水干しを乾とせり
餅とし朝夕を食する事一考二月とてるを村の民い山
中へ山をとりて妻子を思ふと悲ありて恰も市所れあて
して群り集る事幾百粒といふ事と知れ六月とて山
と出つ近村の民いづる家より日ごとくをりて地とるが
のてゝする者幾百人といふ教と知れ他邦へ山をたれと
そ利をいさして不及物い山とあぶらとくくは人民の命と
つるをいはれ珠を多きとておぼしうて其のつとて言つ
へし又井原山村より半里とかりて山とたつめさといふ山あり
まより南れさる山脈越へて唐谷とありていふ山は飯場

村の川上あり飯場村のありて詳と記す

井原川

其源井原山より出つ井原の西と流る川と録綴録統
は鮮多と多く又川上と川下と云ふも又西の堂川
と井原村の東と流る其原河原山より出て玉丸を堂末
の村とてさる祖村のありて井原川といふ川とさる合板橋の
東と流るちち丸は板村河下といふ川と海へ入

瑞梅寺

瑞梅寺村とて天徳山授意院と号し行末村より井原山
の尾に西の山乃侍とありていふ山に八利といふ山あり
内よりを代利村とてさる山村に瑞梅寺建しより利は

標を以て村中ノ觀音堂焉是則瑞梅寺といふ事ハ後
圓融院康暦元年乙丑若濃寺持圓揚井入る道寂而
人曰と今世創立ノ常樂寺の住持仁教和尚と以て宗山と
以て常樂寺ハ志ヲ移す本村とありけ事此寺ノ傳りたる
少ク其ノ文書ノ載りテ護聖山ト号ス禪寺ト申すハ如意
輪觀音トして古佛ノ昔々寺モ云々云々多クありしと
之ノ肥前國小城郡常泉寺并免田知行石之方お邊中
大正七年平胤儀ヲ瑞梅寺ト送りし故あり今ハ終る
其ノ堂一宇多クい堂とのむと目と遊りしを云々眺みし
眼家彦として瑞系代住持といふ云々其ノ堂多ク一羊乳振
其ノ形他境と云々云々ありて云々云々あり

雷山

雷村の山之麓あり高野より一里半程と云りて云々云々
雷村も其地肥饒として林木多し云々云々云々と層増
岐といふに瑞原と魔はけりといへ俗人信爲巨村中
ある中宮より瑞原まで一里ハ云々云々云々云々
仲哀天皇九年壬申朔戊子 神切皇后羽白熊籠
と封んと云りて檀日の宮より松峽の宮と傳り云々松
峽と雷門山のり云々あり辛卯ノ層増岐野と云り即此と
峽と羽白熊籠と封て是と教へ云々云々云々云々別層信
岐野あり沖宮郡より云々い何云々云々云々又表層郡
い何相白熊籠と封ての事ハ表層郡とてハ軍璣方集

すすして徳饗成討の事叶耶し河都の源主ハ最初
ゆ振き一事をあふ人々あり軍兵と集りて再振源朝と
起き徳饗と討あひ成へしと云ふは上層信政野と云
り兵とあけゆふと云ゆる事ん 神切皇后の沖造此多
し神くすへるの文書高記ありも層信政と作はは是
則層信政野なる事疑なり凡い境内と神社三下も層
信政野とありと上宮と云はるの神と層信政野神と
号は瓊々杵とあり一高祖乃社の源起と云へる中
宮と系伝の神は中殿と水火雷電神といふは日本
純といふゆ伊弉冉と剣とわひく斬遇冥智と折く
三版といふ其一版と云ふ雷神といふとあり是則雷神

と云ふとあり是則雷神の徳をすくはる事あり雷
と云ふは天孫四神の後世お殿と祝ありありし下宮ハ
香合名の下一所許は西と云ふは是れ程規と云別上宮と
云ふは勅傳すべし高祖明神住吉大明神と云ふは配し
あり九月十九日祭あり又毎月十九日もありと云ふは雷神
と云ふは伊弉冉事昔と云ふは今と云ふは其神ありと云
事なり昔々帝王及將軍家の沖祈禱なりして數百
所の神社と寄附せらる所もあふ是れ地なりしと云は編者
沖教書國主伝の文書ふ多く傳はり近古九列を記
きし時ち伝も没収せしと云ふは天正十三年二月十日 赤吉云
と雷山に法中より年改の祝儀として是を教書系紙十

此と捧一、秀吉公直書沖朱を乞ふと仰り、今、彼山より
いつて、尚ら義直之使を遣へり、天正十五年、小早川隆
宗尚國の主と成り、付、千九百のち産と寄附せり
之義子秀村の時、是も没収せり。長政公入國の後、
十一名余のち産寄付し、寛文二年七月の、早稲一
つり、足利直冬、尚社と名付、初宮社傳あり、命して
雨乞とせし、忽と雷雨降り、直冬、神感の思ひ、
一首の和歌と詠して、
神殿と敬ひ、其哥と

世に傳へて、思ひ、神のまゝ、ある、天、下、邪
け、と、直書、今、傳り、社、家、れ、舊、記、に、神、印、皇、后
三、韓、と、伝、成、り、ん、と、て、是、亦、山、と、せ、り、あ、ひ、層、傳、成、岳、と、て

天神地祇とあり、も、所、層、増、改、岳、の上、宮、と、天神
七代地神五代の惣社とて、二社を、羽、白、延、鏡、と、付、ん
と、て、ま、り、軍、勢、と、集、り、あ、ひ、に、あ、れ、り、や、高、村、乃、帶
高、野、と、云、枝、村、と、皇、后、の、沖、腰、と、け、あ、ひ、と、云、傳、へ、り、
白、き、石、を、纏、丸、守、り、と、云、人、を、あ、り、と、け、石、と、掬、り、
と、崇、り、と、て、と、ま、は、ま、に、ま、れ、農、人、石、の、と、て、茅、屋、と、化
り、あり、あ、ま、り、又、山、中、の、旗、竿、山、と、い、ふ、あ、ま、り、是、神、印、皇、后
の、沖、腰、竿、と、取、り、せ、あ、ひ、に、と、云、傳、へ、り、と、あ、ま、り、皇、后
れ、獨、り、け、を、あ、ひ、と、あ、り、と、方、丈、人、の、あ、り、の、石、を、又、雷、社
と、上、の、山、路、の、と、云、民、宅、の、か、り、と、云、人、石、を、と、て、と、ま、り、
あ、人、斗、を、石、を、り、具、形、方、は、て、蓋、と、と、り、り、如、く、あ、り、金、せ

めりても相のししなり香合名と云又神蓮んもいふ
其のうへにおおらひて只一方の外とわたり社家へ傳へ
て云け名は雷の神八坂瓊曲玉白銅鏡叢叡母と稱る
神蓋と申し入く納まぬひとまりけ名の形ら若のふと云
慶いころころいひかひ附寄してりありて一△聖武帝の
勅額として清賀上人より寺成建てて重誓寺と名付く
或は雷音ともいへり後と改りてふ如寺と号ひ是信教
七ケもの寺として其八事ハ六ヶ寺も雷山と以て中山とい
いへば坊十區をこへて近世退弱して今残り三坊
ありて一坊中は臨田圃と成て
海もいふ むしりの坊中は臨田圃と成て 寺院の上首と仲
坊といふ又二變地坊也持坊と古座主職する僧の住す

る寺として延壽寺と号ひ本社の前たの方と觀音堂
ありふも子眼の觀音と安置はるを女堂といふてま
の觀に誠とふありと云ふもあへて是清加と人地とありと
を傳へたり其精切なる事幾回及他邦にもありける
古佛の觀音のる傳へ多國折國の二像及二十ヶ部
ありて皆本像として古佛といは觀音堂に内とたあり金と
て經四ヶ寺斗治と二人ありけり是雷山坊中盤龍の
時ありて食物とて酒へる釜ありとや古昔ハ雷山に
山依住していふも孝入と傳りきり雷山の標ともいふ山
依の居りて切ハ八區をこへてふ安養坊といふのともいふ
ありて是觀に定りていふ又い社の四ヶ寺を東に限東に谷峯

西も限嶺振岳南ハ限岩増改北ハ限立石と添記と之
つらう凡雷山ハ山嶺多く寺もいふ嶺多て花の香りの
最奥も都をまきあはる師ハ人れ吹鳴もあつう
誠ハ山の甲斐ありんはあるとやわらさる山原谷の僻所
内ハと昔僅塊も事うつじ山川好まき造化を許せ人平
地着とあ人れつらうしもの影をたあしつらあ人ハを遊覧
すまきあはる雷村より北前國サは岳村ハ越るる一里あり
其らうく大なるけしとて坂ありサは岳ハ岳と多く植てお氏
の産とんふあし山中とまら村ハ又雷村の西ハ信玉の城ハ
あともまきあはるの瀑布も其詳らう事ハ古戦場の
記ハあはるまきと

雷川

雷山より出る川ハ沖坂麓も田畑江由ハ新田村とる
前京の少とあへ入る

沖坂村

雷山の山れぬ中ハありあり 神田皇后雷山ハもとせまひ
りていとせまひあはる故ハ沖坂とまきと初めハ村田の中
在ハる永祿の末京田氏と龍造も教もて京田氏ハ改
肥前より侵ハ掠ハるを漫伐と懸んて川の南ハる
まは山きりくはあて村とまきあはるせとくまはの峯
とまき石壁張りて長く連らまきつらまきハ世代ハ世移り
らうて侵掠の憂あり村氏の音澤皆河ハ流きて耕

此の便ありとて寛文十二年又田の中を移さり又この村
より亦永福の末子とて氏をなすに村址より下りてなり
の村ありと今も屋敷田と云西の邊にありて蓮寺の跡地
と云氏宅と云とて其寺より六言宗なりしは後禪
宗あり足利孝氏の時雷山と云とて雷山と云村と
けんせしと事ありとて追移せしきと云とて海へ
け寺昔に富貴とてと云幾許多ると云や其時の美原
祝音地蔵の三佛と云と云

多久村

和名抄に怡土郡の御乃多と云託社と云と云と云と云
海もろろと云んけ村よりと云と云と云と云と云と云

松樹生しと云二の隊と云と云と云と云と云と云と云
是と云夫婦塚と云と云と云と云と云と云と云と云

藤原村

昔け村と云清浄と云と云寺ありと云と云と云と云と云
佛の春日と云と云と云と云と云と云と云と云と云
と云團司と云藤原氏雅 建れしと云初めに天台宗
として早良郡小松山上宮東門寺と云と云と云と云と云
の以藤原の禪宗と云と云と云と云と云と云と云と云
藤原村の枝村と云延命寺と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云
と云言秘密の立場に法大師の朝の所地と云と云と云

佛と以てを考ふるに古き文書に云くはけ寺も
この地なる廢して今なき也

飯場村

飯場をふる郡の金蔵より一里半長坂と越り深谷の
中より村之又當郡河原村より飯場へ越るを其間
二十二所を其峠とむしゆく云凡飯場村は田畠あり
毎年新墾と越りておきて粟て衣食と給すけ村ハ
ふる郡の曲淵石竈に川より谷をれハ山乃方と付
ころ村あり人恒五郡と属する曲淵ハ只一ツの小川を隔て
西と飯場と一と東と曲淵とハ小川のきりこぬ淵の枝村
も飯場曲淵石竈ハ同一谷れ内とけ谷川のあり源

ふるのふるより出て飯場曲淵石竈と経てふる川
と入る飯場の川とハ下上とふるを飯場村と
曰谷れ上りり水より深山の内れれと谷の内野原昔
ハ人家も田畑もなり近年氏家少くも田畑とけふる
是皆飯場村と属し飯場村より山と越へてり一里ま
け谷 月ハ水ありて水谷と云わやうの支地ありも
ふるも和列吉野の奥音吾川も亦然り水より十所
上より下れけとふるを飯前犯前の境と昔京田より
栄と龍造寺隆信の臣神代氏と合戦せりふるも
章瀬と云流るよりふるもふる斗ふるもふるの灘あり
ふるも十四方斗あり

公領

い國の内博多れ留地として 公の召とてまじし事既に
けき首と記さる 昔公高直と初めて候しむい
町ハ唐付の城まじは氏の領地なり 寛永九年寺
法氏亡して後つきて 公領及唐付候とあり

長野村

山沖坂の西より滞村ハ村として境内方二里あり
初多抄と考ふまじハ長野ハ信五郎のいれ名と尚昔に
村ハ宇津八幡まの神社なりしとありハ八幡宮候
勅請せし社あり 大なる社之昔此社の祠官ハ八月
二ハ初彦部宇津八幡の在宮と候て 神輿沖葉供奉

しつりけあしと

小倉山

小倉村のよりより石河二千下許とまじハ小倉とて少
しあり村より又慈野に程現の社と龍樹程現もお
殿とありと十月十日にお祭あり 女人に祭候とゆ
さん社家老の候しハ 神切皇后の勅請しむい
地と云ふとて寺址あり 聖武天皇ハ勅願として
清聖上人創まじし小倉寺と号し社の下に古佛の親言
堂あり足利号氏と外國之候まじ然も寄附状あり
多し地ともあり朽虫と倉戸と候し又ハ人の情事
昔も寺院僧坊も多ありしとありと候し小社及親

神有村

川あり其原を小倉山雷山より流せしめて
海に入又け村の境内に鬼塚とて廣く
塚あり密なり

岩本村

海をけりて所より民家多し

加布里

所者民家多し一漢人もあり海をけりて
岩ありをけり里をけりて名をけりて
是より舟をけりて海に上りて舟を
けりて南に天神の社ありけり里に名を
中華の書

武備志を載るる

田中村

神有村の西にありて此所を大なり
塚ありて塚の中
にありて南にありて内を
けりて人の骨多し

唐津館

深江

深江館と深江の所ありて名をけりて
江の所なりけり村の南にありて
ありて海をけりて所をけりて
方より名馬驛は是より西に肥前
唐津の馬驛あり

海江より淺海へ三里二十所も海江海に古寺ありもよ
うり所の中は社を龜門山神と天満天神と二神お殿
りてしほ九月廿日お礼と行ひ神輿と出ひ宮司の僧
の長き寺と誕生山神護寺秀覺院と号ひ社の側
秀吉と此中ある金跡あり是朝鮮とお給ひ一時名古
屋へは来の付い地と常りありて秀頼の母淀殿
羞の告りてしよて秀頼と胎りてしよて秀吉と斜
なりは悦ひ當社を則秀頼の産神なりとて小早
川隆景と命りて此社と改りて他をあらはし誕生
山の号あり

一貴山

深江の西は海原とすて怡玉の傍にま子負京の山と
けはれりて神切皇后沖舟とあるひ一山とて沖
原といふ所あり

一貴山

此地も亦神切皇后の神と勅傳りぬひとて傳
へりといふ名のとありて社とせりて此の神とあるひ
知る考知難し西峯老人曰今案是天目一箇命
乃社ありて古語拾遺曰天目一箇命ハ龍女伊勢也
團三郎の祖なりと一貴ハ一箇の將焉りきとて海
音と聖武帝の勅命とて傳清聖は下りて

寺と建て一貴山夷山魏寺と号し恒五郎七ヶ寺乃
随一之布号ハ流院として僧舎七十二坊ありと云其
布号も僧舎も英上して今ハ二王門のまゝなり
跡ハ二王の像のまゝ門のまゝなり二王の像も号切之
村人むくと慕ハ村より其の方を傳きて今ハ小堂二宇
と比り佛と安置せり其余ハハ院もせく又佛も
居す今ハ里の名と一貴山村と号して氏家多し
け村ハ下ハ地より漸上りていふと云ふあり

子貞原

流前風土記と云子貞原原兒齋野と云と云万
葉集中五卷ハ白流前園恒五郎流前村子貞系海

と流前丘の上と二石あり大なるハ長と一人或寸六
圓と一人寸六の重と十六斤十兩並ニ圓形にして鷄子
の如しと美好なる事傳けて流前ハハ所謂恒五郎
是なり或云ハ二石ハ把布園被持郎流前の若孫と云事二
十下津里と云流前ハハ公和流前と云事の馬より下
りて流前と云事也古老ハ傳へて云ひり息長
足日女命新羅園と征伐ハハの討たる石と用て沖
袖の中と著て流前ハハ

万葉集五卷

かけきも あやこがこー たりしひり かのこころ
かしくを ひけきのいけて こころを まつめあふ

の社と創まは是むじり 皇后の沖擲しるるを
ふるけきとてとと盗人うて失ぬ近年深江の村氏
ら帝とて志そをさして擲て左一とて出せしめて心の
石とてあし氏家と納置しと山鳩一羽とて家と飛入
し取法人いふけるとそ教す是とてうて深江の氏い
社と建て其名と納じ横七寸高七寸行かす多あし
赤毛と石の只一つ也と擲しける名義集風土記の説
とはとてまはちいふ久安とて減るまはとてあしね
るそと成へき理せしといふく是入るる義集集
子貞宗は深江とてある事廿一評とありしと里氏の子
貞宗と稱する所は深江の路より五丁より西とあり

及の傍海に臨する丘ふれは義集の末と載るる事
是ありし是よりあし貞宗といふことありしと
程きく同一かゝる事いふり義集の集の説とてハ
流るを

深江川

川の底さ十一町斗と吉村瀬戸村より出深江とて海
へ入る

久安寺

吉井村の境内深岳の下に址ありけるしり一信五部
七ヶちれ一なりといふ寺也

深岳

吉井村の南より高嶺の浮岳の東へつてえ
とうとうあまの山あり又東へつて二つとも吉井岳
と云け四つの内浮岳をさし

葉嶋 或曰く島嶼也

吉井村の北西と十所斗ある山嶺は

吉井川

浮岳より流れて吉井川となりて吉井川福井川と
なりぬ

福嶺

吉井村の西麓家村の東へあり

麓家嶺

麓家村の西より福嶺と別なり

包石

鹿家の西をさうり山の海をさしあり又ある名にさうり
と内れた石少名と包石とありて包石とありて南へ
小川ありて是れ麓家と別なれ嶺は是れ吉井とありて
里ありて西の尾乃山の上より松浦の方へさしあり山
麓家の城をさしゆるり住家なり

吉井村の南麓

福井村の南麓吉井と云ふ山と被へて南の麓谷を
さし凡て吉井の流村をさし山より少くとも吉井村の
さう山の南麓あり方より福井より一里ありて村を

じりょう入村の枝村なり

以上唐津領

関屋ニヶ所

は郡西のふきと関屋ニヶ所と前京村と筑前国主の
の宮はもよおの東に宮の宮はもよおの西より
に宮より福井より西と唐津は館なり

筑前国續風土記卷之終



